

まほろば秦野通信

平成27年11月5日

秦野市役所市長室広報課

タイトル	渋沢共有地管理組合創立60周年記念 「渋沢駅敷設の由来」モニュメント看板除幕セレモニーを開催
When (いつ)	11月8日(日曜日) 午前11時
Where (どこで)	小田急線渋沢駅南口駅前広場(渋沢駅南口交差点付近)
Who (だれが)	渋沢共有地管理組合 管理委員長 諸星 義晴 (連絡先:090-7710-2853) 組合員数:187名
What (なにを)	
How (どのように)	渋沢駅共有地管理組合では、組合創立60周年と市制施行60周年を記念して、渋沢駅敷設の由来を記したモニュメント看板を作製しました。
Why (なぜ)	そこで、その歴史を後世に伝えるため、モニュメント看板を渋沢駅南口広場に設置し、11月8日(日)に除幕セレモニーを行います(別紙:イメージ図等)。 ※渋沢共有地管理組合の創立日:昭和30年3月15日 市制施行日:昭和30年1月1日
問い合わせ	政策部企画課企画政策担当 担当:横溝 電話0463(82)5101



「渋沢駅」敷設の由来

1987年（昭和62年）12月1日、JR東日本が「新大塚駅」を開設し、同時に「新大塚駅」から「新大塚駅」までの区間を「新大塚線」として開設した。この区間は、従来「大塚線」として運行していたが、この区間を「新大塚線」として運行することになった。この区間は、従来「大塚線」として運行していたが、この区間を「新大塚線」として運行することになった。

JR東日本
新大塚線

「渋沢駅」 敷設の由来



「渋沢駅」は渋沢共有地管理組合が所有地を無償提供して、この地に昭和に敷設された。関東大震災後、小田原急行鉄道株式会社(現小田急電鉄株式会社)により、新宿-小田原間に鉄道建設が始まり、西泰野村内に駅を設置するにあたって大字渋沢の管理地(現渋沢共有地管理組合)の先人たちは、苦しい生活を強いられながらも「村や地域が発展するなら」と、共有地の下三屋(現曲松一丁目)の一丁歩(1ヘクタール)有余を無償提供し、乗降口を南側に設け、駅名を「澁澤驛」にするなどして駅の敷設・誘致に尽力した。近年では「渋沢駅」をシンボルとして駅周辺の土地区画整理事業など公共事業にも積極的に協力し、立派な町並みになりました。ここに市制施行60周年と渋沢共有地管理組合の創立60周年を記念して「渋沢駅」が敷設された由来を掲示します。

平成27年 月 日
渋沢共有地管理組合

600

30

850